



答弁書

特許庁審査官 石川 太郎 殿

1. 國際出願の表示 PCT/JP2005/005464

2. 出願人

名称 スカラ株式会社
SCALAR CORPORATION

あて名 〒173-0004
日本国東京都板橋区板橋二丁目10番5号
10-5, Itabashi 2-chome, Itabashi-ku,
Tokyo 173-0004, JAPAN

国籍 日本国 JAPAN
住所 日本国 JAPAN

3. 代理人

氏名 (10860) 弁理士 村松 義人
MURAMATSU Yoshihito



あて名 〒105-0014
日本国東京都港区芝三丁目22番7号
芝NKビル4階
Shiba NK Bldg. 4th Floor
22-7, Shiba 3-chome, Minato-ku,
Tokyo 105-0014, JAPAN

4. 通知の日付 26. 04. 2005

5. 答弁の内容

今回、補正は行っていない。

本願には、請求項は 16 個含まれているが、それらのうち請求の範囲第 1 項、第 2 項が独立形式請求項である。

これら独立形式請求項のいずれにも、「前記オブジェクトの画像（又は光像）は、下方を見るユーザがこれを目で追うようにすることで、前記ユーザの疲労を回復させられるようになっている。」という内容が含まれている。

この点に関し、国際調査見解書では、「(1) 文献 1 記載の発明では、表示部（又は発光部）が、ユーザーが視線を下方にずらしたときにのみ視界に入るよう構成されていない点、(2) 文献 1 に記載の発明では、画像（又は光像）が水平方向に往復移動するものではない点」を本願発明と文献 1 記載の発明の相違点として認定した上で、相違点(1)は設計的事項であり、相違点(2)は文献 2 に開示があるので、本願発明は文献 1、2 の組合せから容易に想到できると認定されている。

しかしながら、相違点(1)にあたる「ユーザがオブジェクトを下方に見る」という点は、当業者であっても容易に想到できるものではない。「ユーザがオブジェクトを下方に見る」という内容は、ユーザの疲労の回復を目的として採用されたものである。そして、「ユーザがオブジェクトを下方に見る」ことで疲労を回復できる機序は、本願明細書の 2 頁 16 行～3 頁 4 行に記載された通りである。下方を見るユーザが疲労を回復できる上述の機序は、本願発明者の 1 人であり、国立大学の医学部の教授である松尾 清が長年の研究の末発見したものである。したがって、上述の機序を知らなければ、当業者であっても、「ユーザがオブジェクトを下方に見る」という点は到底容易には想到できない。

また、本願の独立形式請求項に記載の発明は、ユーザの疲労回復という文献 1～2 を超える作用効果がある。

また、文献 1、2 においては、国際調査見解書に記載の通り、「オブジェクトの移動パターンは画面全域に渡っている」のだから、文献 1、2 に基づいて、「ユーザがオブジェクトを下方に見る」という点を想到できないのは当然である。上位

概念の公知は、下位概念を想到する理由にはならない。むしろ今回の場合、画面全域をオブジェクトが移動することが公知なのは、「ユーザがオブジェクトを下方に見る」という下位概念を想到するにあたっての阻害要因となる。

以上の理由により、本願の独立形式請求項記載の発明はすべて進歩性を有し、それ故他の請求項記載の発明もすべて進歩性を有する。

なお、本願独立形式請求項では、下方を見るユーザがこれを目で追うようになると、ユーザの疲労を回復させられるようにするために、オブジェクトは、水平方向の平行移動を行うものとされている。かかる点も併せて考慮いただきたい。